

国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会  
2019年度第1回理事会次第

日時：2019年 6月15日（土）9時30分～  
会場：セラミックパークMINO イベントホール

< 議 案 >

1. 専決処分の報告について（報第1号）
2. 専決処分の報告について（報第2号）
3. 2018年度国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会収支決算について（議第1号）
4. 第12回国際陶磁器展美濃審査員について（議第2号）
5. 第12回国際陶磁器展美濃募集要項について（議第3号）

< 報 告 >

1. 2019年度海外渡航報告について
2. その他

---

< 配布資料 >

- ・ 国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会2019年度第1回理事会議案及び報告資料
- ・ 資料1 第12回国際陶磁器展美濃審査員一覧（議第2号関係）
- ・ 資料2 第12回国際陶磁器展美濃募集要項（議第3号関係）



国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会

## 2019年度第1回理事会 議案

2019年 6月15日(土)



報第1号

専決処分の報告について

国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会規約第13条第1項の規定により、次のとおり専決処分したので、同条第2項の規定により、これを報告する。

2019年 6月15日提出

国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会

会 長 多治見市長 古 川 雅 典

専第1号

国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会監事の承認について

人事異動に伴い変更となった監事を次のとおり承認するについて、国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会規約第13条第1項の規定により、専決処分する。

2019年 4月18日

国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会

会 長 多治見市長 古 川 雅 典

監事 土岐市総務部長 下原孝一



報第2号

専決処分の報告について

国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会規約第13条第1項の規定により、次のとおり専決処分したので、同条第2項の規定により、これを報告する。

2019年 6月15日提出

国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会

会 長 多治見市長 古 川 雅 典

専第2号

国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会副会長の承認について

選挙に伴い変更となった副会長を次のとおり承認するについて、国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会規約第13条第1項の規定により、専決処分する。

2019年 5月10日

国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会

会 長 多治見市長 古 川 雅 典

副会長 土岐市長 加藤淳司





国際陶磁器フェスティバル美濃 理事役員名簿

理事会役職	氏名	所属	役職
会 長	古川 雅典	多治見市	多治見市長
副会長	水野 光二	瑞浪市	瑞浪市長
副会長	加藤 淳司	土岐市	土岐市長
副会長	富田 成輝	可児市	可児市長
副会長	田代 正美	多治見商工会議所	会頭
副会長	鷺尾 賢一郎	瑞浪商工会議所	会頭
副会長	白石 文伸	土岐商工会議所	会頭
副会長	加藤 恒文	笠原町商工会	会長
副会長	井川 孝明	岐阜県商工労働部	部長
副会長	尾崎 浩之	岐阜県東濃県事務所	所長
副会長	河口 一	日本陶磁器工業協同組合連合会	理事長
副会長	坂崎 義雄	日本陶磁器卸商業協同組合連合会	理事長
副会長	水野 雅樹	全国タイル工業組合岐阜県支部	支部長
副会長	河口 一	岐阜県陶磁器産業連盟	会長
副会長	佐藤 喜好	公益財団法人セラミックパーク美濃	専務理事
理 事	中村 俊之	岐阜県東濃保健所	所長
理 事	名張 誠	岐阜県多治見土木事務所	所長
理 事	野々村 敦	岐阜県多治見警察署	署長
理 事	横山 久範	岐阜県セラミックス研究所	所長
理 事	高橋 秀治	岐阜県現代陶芸美術館	館長
理 事	河口 一	岐阜県陶磁器工業協同組合連合会	理事長
理 事	深萱 洋勝	岐阜県陶磁器卸商業協同組合連合会	理事長
理 事	早田 辰比呂	岐阜県タイル商業協同組合連合会	理事長
理 事	加藤 誠二	岐阜県窯業原料協同組合	理事長
理 事	中山 恭平	岐阜県石膏型工業協同組合	理事長
理 事	河口 一	岐阜県陶磁器デザイン協議会	会長
理 事	足立 公子	岐阜県陶磁器デザイナー協会	会長
理 事	林 恭助	公益社団法人 美濃陶芸協会	会長
理 事	金子 賢治	多治見市美濃焼ミュージアム	顧問
理 事	田口 利寿	岐阜県トラック協会東濃支部	支部長
理 事	今枝 寛彦	多治見国際交流協会	会長
理 事	加藤 誠二	岐阜県石油商業組合多治見支部	支部長
理 事	梅田 彰	一般社団法人 岐阜県発明協会多治見支会	支会長
理 事	松島 祥久	一般社団法人 多治見建設業協会	理事長
理 事	田財 千裕	一般社団法人 多治見青年会議所	理事長
理 事	日比野 慎也	一般社団法人 瑞浪青年会議所	理事長
理 事	渡辺 佳枝	一般社団法人 土岐青年会議所	理事長
理 事	増田 智子	日本貿易振興機構 岐阜貿易情報センター	所長
理 事	菊永 博	中日新聞社 社会事業部	部長



議第1号

2018年度国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会収支決算について

2018年度国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会収支決算について、  
次のとおり承認するものとする。

2019年 6月15日提出

国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会

会 長 多治見市長 古 川 雅 典



国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会  
2018年度収支決算書

(単位:円)

【収入】

大科目	中科目	小科目	主な内容	決算額	予算額
01 事業収入	01 事業収入			49,527	37,500
		05 図録売捌収入	図録売上	44,084	37,500
		07 物販収入	ダイヤモンドディッシュ	5,443	
				7,862,962	7,862,962
04 繰越金収入	01 繰越金収入			7,862,962	7,862,962
		01 繰越金収入	前年度繰越金	7,862,962	7,862,962
05 雑収入	01 受取利息			42,237	8,410
		01 預金利子収入		42	10
	02 預り金			10,359	8,400
		01 預り金	嘱託職員 労働保険料預り金	10,359	8,400
	03 還付金収入			5,532	
		03 保険料還付金収入	労働保険料還付金	5,532	
	04 雑収入			26,304	
		01 戻入金	輸入税立替分	24,237	
	02 雑収入	賞状再印刷料	2,067		
収入合計				7,954,726	7,908,872

【支出】

大科目	中科目	小科目	主な内容	決算額	予算額	
02 管理費	06 人件費			6,253,203	5,412,530	
				3,477,968	3,394,170	
		01 報酬	嘱託職員報酬	2,879,886	2,877,243	
		03 福利厚生費	嘱託職員社会保険等	498,082	516,927	
		07 賃金	台湾コーディネーター謝礼	100,000		
	07 事務費				2,775,235	2,018,360
		09 旅費	台湾海外渡航等	553,884	208,000	
		10 交際費		0	10,000	
		11 消耗品費	事務用品等	142,725	136,000	
		12 燃料費	公用車ガソリン代	100,796	84,000	
		13 会議費	打合せ時食事代	2,370	20,000	
		14 印刷製本費	封筒印刷代	27,216	30,000	
		15 修繕費	公用車修繕	63,500	50,000	
		17 通信運搬費	郵便・宅配・電話料金等	172,280	211,960	
		18 手数料	振込手数料	29,584	30,000	
		19 保険料	公用車共済保険料	20,510	21,000	
		20 委託料	巡回展、財団業務委託	1,142,960	1,000,000	
		21 使用料及び賃借料	施設使用料等	95,481	100,000	
		24 租税公課費	過年度所得税、法人税、自動車税	423,929	117,400	
	10 予備費				0	
29 予備費				0		
支出合計				6,253,203	5,412,530	
				繰越額	1,701,523	

## 監 査 報 告 書

2018年度国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会会計決算について監査した結果、決算報告書は当該年度末の会計状況を適正に表示しており、また関係書類とも符合し、正確であることを認めた。

2019年 5月 15日

国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会

監事 瑞浪市会計管理者

比野 茂雄 (印)

監事 土岐市総務部長

下原 孝一 (印)

議第2号

第12回国際陶磁器展美濃審査員について

第12回国際陶磁器展美濃審査員について、次のとおり決定するものとする。

2019年 6月15日提出

国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会

会 長 多治見市長 古 川 雅 典





第12回国際陶磁器展美濃 審査員一覧

陶芸部門	陶磁器デザイン部門
<p><b>建畠 哲</b>                      (たてはた あきら)                      [審査員長 (全体審査員長)]                      日本                      美術評論家                      埼玉県立近代美術館館長</p>	<p><b>藤森 照信</b>                      (ふじもり てるのぶ)                      [審査員長]                      日本                      東京大学名誉教授                      東京都江戸東京博物館館長</p>
<p><b>榎本 徹</b>                      (えのもと とおる)                      日本                      岐阜県現代陶芸美術館顧問</p>	<p><b>唐澤 昌宏</b>                      (からさわ まさひろ)                      日本                      東京国立近代美術館工芸課長</p>
<p><b>前田 昭博</b>                      (まえた あきひろ)                      日本                      陶芸家</p>	<p><b>金島 隆弘</b>                      (かねしま たかひろ)                      日本                      アートプロデューサー                      芸術学研究者</p>
<p><b>クラウディア・カザーリ</b>                      イタリア                      美術史家                      ファエンツァ国際陶芸美術館館長</p>	<p><b>パトリック・レイモン</b>                      スイス                      デザイナー、建築家                      「アトリエ・オイ」共同創設者</p>
<p><b>李政錫</b>                      (リ・ジョンソク)                      韓国                      ソウル科学技術大学校陶磁文化                      デザイン学科教授</p>	<p><b>白明</b>                      (バイ・ミン)                      中国                      芸術家、作家</p>



議第3号

第12回国際陶磁器展美濃募集要項について

第12回国際陶磁器展美濃募集要項について、次のとおり決定するものとする。

2019年 6月15日提出

国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会

会 長 多治見市長 古 川 雅 典



# 第12回国際陶磁器展美濃 募集要項 主要項目

## テーマ

「やきもののゆくえ」  
既成の概念にとらわれず、自由な発想でやきものの未来を切り拓く作品を求めます。

## 募集部門

- 陶芸部門  
自由な発想と手法による陶芸作品
- 陶磁器デザイン部門
  - ①ファクトリー分野  
実用機能を有するファクトリープロダクト
  - ②スタジオ分野  
実用機能を有するスタジオ(個人)プロダクト
  - ※ ①は企業等又は企業等に属する個人・グループでの応募  
②は個人・グループでの応募

## 応募作品の条件

- ①「やきもの」を中心とした作品であること。
- ②第11回国際陶磁器展美濃終了以降に創作した作品に限ります。
- ③他の公募展に入選していない作品に限ります。
- ④運搬及び室内での展示に支障のない大きさ・重量・形態のものに限ります。(目安:床面積4㎡ 高さ4mまで)

## 応募資格

一切問いません。  
個人・グループでも企業でも応募できます。

## 応募点数

各部門3作品まで応募できます。

## 出品登録料

応募に際しての出品登録料は不要です。

## 公用語

このコンペティションの公用語は、日本語/英語とします。

## 応募受付期間

応募受付開始日:2019年11月1日(金)  
応募受付締切日:2020年1月10日(金)

## 審査

このコンペティションの審査は次の3段階で行います。

審査段階	審査対象	審査方法
予備審査	作品画像	審査員が個別に第1次審査の対象候補作品を選出します。
第1次審査	作品画像	審査員が一堂に会して最終審査の対象候補作品を選出します。
最終審査	現物作品	審査員が一堂に会して入賞・入選作品を選出します。

## 審査結果の通知

原則 E-mail で通知します。ただし、入賞・入選者には文書でも通知します。なお、予備審査の結果通知はありません。電話などでの個別の問い合わせには応じられません。

## 賞

賞	部門	陶芸部門	陶磁器デザイン部門
グランプリ	(500万円)	1作品	
金賞	(200万円)	1作品	
銀賞	(100万円)	1作品	各分野1作品
銅賞	(50万円)	2作品	各分野1作品
審査員特別賞	(10万円)	5作品	5作品
坂崎重雄セラミックス賞*	(50万円)	1作品	1作品
入選		180作品程度	

※各部門の金賞作品からグランプリ作品を選定します。  
※グランプリと金賞作品は岐阜県現代陶芸美術館に収蔵します。  
\*若手作家の逸材の輩出を目的として坂崎重雄セラミックス賞を設けます。(応募締切時点で40歳以下の応募者(個人)が対象)

## 受賞作品の展示・公開

入賞・入選作品は、2020年9月18日から2020年10月18日まで開催される「第12回国際陶磁器展美濃」に展示します。また、本展作品集(図録)や主催者のホームページへの掲載により公開します。

## スケジュール

応募受付期間	2019年11月1日~2020年1月10日
予備審査(画像審査)	2020年1月~2月
第1次審査(画像審査)	2020年4月7日・8日
第1次審査結果の通知	2020年4月中~下旬
最終審査用作品搬入(輸送・海外)	2020年6月22日~26日
最終審査用作品搬入(輸送・国内)	2020年7月2日~8日
最終審査用作品搬入(自己持込)	2020年7月4日・5日
最終審査(現物審査)	2020年7月12日・13日
最終審査結果の通知	2020年7月下旬
表彰式・内覧会	2020年9月17日
開会式	2020年9月18日
展覧会	2020年9月18日~10月18日
展示作品自己搬出	2020年10月18日閉会後・19日
輸送による展示作品の返却	展覧会終了後6ヶ月以内

※ その他、応募方法や作品の搬入・返却方法などの事務手続に係る事項は、事務局にて策定する。



国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会

## 2019年度第1回理事会 報告

2019年 6月15日 (土)





## 1. 概要

世界四大陶磁器コンペティションの1つ、世界陶磁ビエンナーレを開催している韓国との交流を図るために訪韓を実施した。韓国陶磁財団、利川（イチョン）陶磁器組合、第12回国際陶磁器展美濃の審査員予定者との面談を行い、今後の交流やPRなどについて意見交換した。また、開催中の利川陶磁器祭りも視察し、現地の作家などとも交流した。

財団や組合との連絡調整を依頼した（一財）自治体国際化協会（クレア）ソウル事務所とも面談し、近年の韓国情勢や今後の協力などについて意見交換した。

## 2. 行程

【期間】 2019年4月25日～28日

【渡航者】 樋口事務局長、赤塚企画運営スタッフ

【現地調整】 クレアソウル事務所 大沢所長補佐

【訪問先】（応対者）

- ・クレアソウル事務所（所長ほか）
- ・利川陶磁器組合（理事長）
- ・韓国陶磁財団（代表理事ほか）
- ・第12回国際陶磁器展美濃審査員予定者（本人）
- ・利川陶磁器祭り（利川陶磁器組合理事長ほか）



【韓国陶磁財団での面談】

## 3. 内容

- ・文化の面での交流に問題はない
- ・交流には前向き。特に作家の相互交流を希望している
- ・相互のPRや事務局間の連携にも前向き。将来的には連携した公募展なども希望

## 4. 現状

- ・文化面での交流は首長の政治的考えもあるが、基本的に韓国側は望んでいる
- ・利川陶磁器祭りを主催している利川陶磁器組合の組合員は陶芸作家が中心。メーカーは隣の驪州（ヨジュ）市が多い
- ・韓国陶磁財団が主催している世界陶磁ビエンナーレは、公募展と企画展を一緒にした形など新しい試みに挑戦している
- ・ワークショップなど美濃の作家との交流は途絶えがち

## 5. 今後

- ・要項の送付、ブース設置などの相互PRを活発にしていく
- ・利川市などとの交流を調査していく
- ・産業振興事業での取り組みを考えた交流を模索
- ・作家交流の補助や協力、連携した企画などを検討していく



【審査員予定者との面談】

## ハンガリー・フィンランド渡航報告

### 1. 概要

ハンガリー及びフィンランドの陶磁器製造会社・人材育成機関を訪問し、第12回国際陶磁器展美濃への応募、国際陶磁器フェスティバルのPR、今後の交流などについて意見交換した。



【ヘレンド社での意見交換】

### 2. 行程

【期間】 2019年5月18日～22日

【渡航者】 実行委員会：加藤副会長(土岐市長)、事務局長、企画運営スタッフ1名

岐阜県：地域産業課長、地域産業課地場産業振興係長

土岐市：秘書広報課長

【訪問先】 ヘレンド社(ハンガリー)

ケチュケメート国際陶磁器スタジオ(ハンガリー)

アールト大学(フィンランド)

アラビア社(フィンランド)



【ケチュケメート陶芸スタジオ視察】

### 3. 内容

いずれの団体においても、国際陶磁器展美濃の認知度・関心は高く、PR・応募の促進、今後の交流について、協力していくとの返答を得た。

#### 【ヘレンド社】

- ・社のデザイナーに応募を促すとともに、社として応募することも検討していく。
- ・ヘレンド社が滞在費を負担する形で若者を短期間受け入れ、交流することが可能。
- ・国際的に自社製品をPRしていく中で、フェスティバルへの出品を前向きに検討していく。
- ・文化交流を契機にコネクションを作り、信頼関係を作り、経済的関係へと繋げていきたい。

#### 【ケチュケメート国際陶芸スタジオ】

- ・滞在する陶芸作家や学生に対しPRしていく。

#### 【アールト大学】

- ・応募に要する輸送費などのサポート、展覧会への訪問などを検討していく。

#### 【アラビア社】

- ・フェスティバルへの出品・参加も前向きに検討していく



【アールト大学との意見交換】



【アラビア社視察】